

センターニュース

近紫外線除去フィルム被覆下での 施設メロンにおけるマルハナバチの利用



UVC フィルム被覆下で活発に訪花する
マルハナバチ

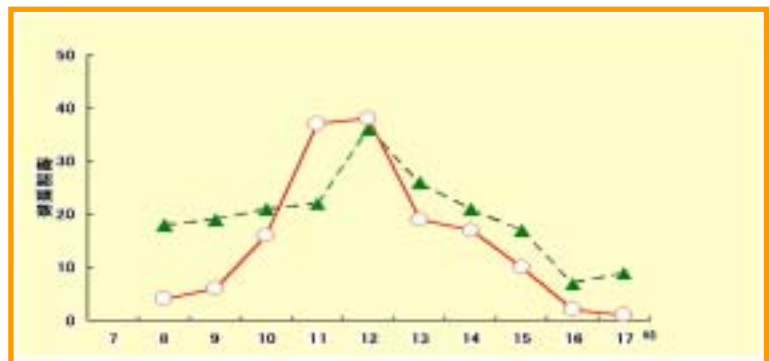


図 UVC フィルム被覆下のマルハナバチの活動

○はUVCフィルム被覆下、▲は一般農ビ(慣行)被覆下
におけるマルハナバチの確認頭数(約5分間調査)

表 マルハナバチ交配に及ぼす UVC フィルムの影響

区	着果数	開花数	着果率
UVCフィルム	294	298	98.7 %
一般農ビ(慣行)	297	298	99.7

施設メロン栽培では、アザミウマ類、うどんこ病などの病害虫による被害が問題となっています。特に、メロン黄化えそ病は、ミナミキイロアザミウマの吸汁によりウイルスが媒介されますので、その防除が重要です。そこで、アザミウマ類に対して忌避効果が高い近紫外線除去(UVC)フィルム被覆によるメロン栽培を検討しました。しかし、これまで受粉作業で利用されてきましたミツバチは、UVC フィルム被覆下では十分に訪花しな

いことから、マルハナバチ(セイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris*) を使用して、その訪花と着果への影響について調査しました。その結果、UVC フィルム区でのマルハナバチの訪花活動は一般農ビ(慣行)区とほとんど差が認められず、着果率もほぼ同様であることから、UVC フィルム被覆下の施設栽培メロンにおいて、交配にマルハナバチを利用することは十分可能であると考えられました。(昆虫科 高橋 尚之 088-863-4915)